

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

私は新潟生まれの新潟育ち、大学も新潟で生粋の新潟人でした。そんな私ですが、大学で浜益村(現石狩市浜益区)の火山をフィールドワークの対象として選り研究を行った時に、北海道の自然の雄大さや住んでいる人の優しさに魅力を感じ、新潟から北海道へ移り住んできました。

新卒で入社した現在の会社では、主に道路に関わる地すべりやトンネルなどの地質調査・解析業務に携わっています。このうち、当社は斜面防災に関わることが多く、昼夜・平日休日・盆正月を問わず災害が発生すれば現地に急行しております。このため、日々の予定が立てづらい状況なのですが、斜面崩壊などの災害現場に多く携わることで、生きた崩壊現象を観察することができ、私自身、非常に良い機会に恵まれていると実感しています。

普段何気なく安定していると思っている斜面でも、集中豪雨に遭遇すると崩壊が発生している様子を見ると、つくづく「斜面の表面しか見ていないんだな～」と実感させられます。そんな中でも、「崩れるには必ず原因がある！」と思い、現地を歩き考え続けていくように心がけています。

まだまだ、若輩技術士ではありますが、諸先輩の方々から教えて頂いたことを肝に銘じながら、資質向上を図り、周りから信頼される技術者となって、第二の故郷である北海道の発展に寄与する技術者の一員になっていきたいと思ひます。

青木 淳 (あおき あつし)

● 応用理学部門(地質)
建設部門(土質及び基礎)

勤務先

株式会社 構研エンジニアリング
e-mail : a.aoki@koken-e.co.jp



→ 次号は、安藤 勸さん(応用理学部門)

私は、空知地方の南部にある三笠市で生まれました。その後、広大な十勝平野のほぼ中心に位置する帯広市で育ち、現在に至っています。

帯広・十勝は、食べ物が美味しく、冷涼少雨の大陸性気候?であり、暮らしやすい地域です。

2005年(平成17年)から現在の会社に勤務しています。私の担当技術者としてのデビュー戦は、

十勝川下流域の軟弱地盤地帯における土取り場の土質調査で、ほぼ毎日のように泥炭等の軟弱地盤と格闘し、泥んこになりながら仕事をしていた事を思い出します。以降、道路や河川構造物等の地質調査や解析業務等に携わり二十数年、技術者として年齢ばかりを重ね時間が過ぎていく中、ようやく平成24年の春に念願であった技術士(建設部門)に合格することが出来ました。

さて、公共事業が激減し、建設関連業は非常に厳しい社会情勢にある訳ですが、地域の人々の快適で豊かな暮らしを支える社会資本整備は、その整備量が減少したとしても必要不可欠なものであります。

そこで、厳しい財政状況の中、最適なコストによる設計及び施工に資するため、地盤の不確実性をいかに軽減して行くかが今後の地質調査を担う技術者に求められる重要な役割の一つと考えています。

このような時代の要請に応えられるよう、今後も技術者として自己の資質向上を目指し、業務に励んで行こうと思ひます。さらに、色々な人との繋がりを大切にし、その役割を果たせればと考えています。

笠井 毅 (かさい たけし)

● 建設部門(土質及び基礎)

勤務先

エスエスコンサル株式会社
e-mail : ssc-t-kasai@sai-ide.co.jp



→ 次号は、福田 正人さん(建設部門)